

# 介護老人保健施設 平成唯仁館 【上益城郡益城町】

施設敷地内に田んぼや畑を整備し、施設利用者が稲作や野菜栽培などを行うことで、自発的行動や活動意欲の増加、自己効力感の向上につなげている。収穫した農作物等は、施設において行事の食材として利用。

## 1 基本情報

- 所在地：上益城郡益城町宮園1139-1
- 介護サービスの種類：通所リハビリテーション
- 施設ウェブサイト：seijin-kumamoto.or.jp

## 2 取組を始めたきっかけ

令和4年度から、利用者の健康増進や生きがい作りのため、機能訓練と社会参加の一環として農的活動を実施している。

通所リハビリを利用する楽しみや「その人がみんなの先頭に立ち輝ける日」を作りたいとの思いから、利用者の特性と地域性を活かした農的活動として米作り等の取り組みを開始した。

## 3 取組に係わる関係者

令和4年度から稲作経験者の介護福祉士1名が主となり活動開始。

現在は、通所利用者（130名程度）、職員22名（看護師、介護福祉士、リハビリテーション専門職）が参加。

## 5 取組の効果、成果

- ・農的活動を通して、記憶を回想し過去の経験を体験することで、身体から情報を経て、「作業工程の記憶」（手続き記憶）が刺激される。その結果、自発的行動や活動意欲が増加し、「やりがい」が芽生え、さらに達成感と成功体験が加味されることで、自己効力感の向上につながった。
- ・利用者が生きがいを持って活動できる環境を作り、利用者一人一人の身体機能や思いを受け止め行動することが、利用者の存在価値や施設の利用価値を高める結果となった。

## 4 取組の内容

- 施設敷地内に田んぼ（ト口箱）や畑、花壇を整備し、稲作や野菜栽培、味噌作りなどの農的活動を行っている。
- 農的活動に取り組むにあたり、事前に利用者との会議を行い、作業工程の確認や役割決め、目標設定を行っている。
- 心身機能に関係なく田植えや稲刈り、脱穀や粃摺り作業に取り組めるよう、ト口箱を台に設置し高さを調整するなど環境を整えることで、独歩や車椅子など多様な人が参加している。  
（5月土作り・苗床・種まき、6月田植え、10月稲刈り、11月脱穀・粃摺り、12月赤飯作り）
- 野菜栽培は、畑を耕し、季節の野菜を植え、水まきや草取りなどを利用者と一緒に行い、収穫まで行っている。
- 味噌作りでは、利用者と一緒にお大豆を茹で、身体に不自由があっても参加できるようにすり鉢やビニール袋に入れて瓶で潰すなど、作業方法も考慮している。
- 米や野菜、味噌は行事の食材として利用している。



## 参加者の感想

### ★利用者の声

- ・今、身体は自由がきかないが、知識や経験があるので責任をもって米作りを頑張る。米作りは私の楽しみと生きがい。
- ・教師をしてきて教える立場だったが、この歳になって教えてもらうことがあった。米作りは初めての経験で本当に幸せだった。

### ★職員の声

- ・何かしらの懐かしい思い出が蘇る時間のプレゼントができた。
- ・利用者様から手紙をもらい、さらに利用者様の思いに応えたいと思った。